

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700063		
法人名	生月漁業協同組合		
事業所名	JFいきつき グループホーム ふれあい		
所在地	長崎県平戸市生月町里免652番地24		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022&ani=true&jigyosyoCd=4290700063-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ	
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号	
訪問調査日	平成29年3月16日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎認知症対応型共同生活介護事業所として、ご利用者皆様と職員が家族同様に接し、家庭の雰囲気作りに努め、ご利用者皆様が安心して穏やかな生活が送れるように気持ちを込めてお世話をし、又、ご家族皆様とのコミュニケーションを心がけ、地域に愛される施設づくりを心がけている。

(外のウッドデッキ及び裏庭の活用)

◎両ユニットから裏庭に通じるウッドデッキ(交流広場)や裏庭を利用し、天気の良い日は外での食事やひなたぼっこ、バーベキューや焼き芋、又、生月の秋の風物詩として、焼きアゴや塩アゴを作ったりしている。又四季を通して、畑での作物の栽培や収穫を行い、施設ご利用者の交流の場となっている。又、遊歩道があり、車椅子での散策や散歩に活用している。

(給食材料)

◎食材については、生月漁協スーパーしおかぜから新鮮野菜類他の仕入れ、又、魚介類については、その日入荷した新鮮な魚を生月漁協お魚市場(網元)から仕入れ、ご利用者皆様にご提供している。このように調達については、本施設が漁協の関連施設であることから直での対応が可能である。

(心の癒し)

◎施設の中庭には、小さな庭園があり、春には芝桜を觀賞している。

◎クリスマス時には、光のイベントと称し、施設玄関横植栽にクリスマスツリー等をイメージしたイルミネーションを設置し、ご利用者皆様も毎年楽しみにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、平戸市生月島内の生月支所の隣に位置し、目の前には生月港があります。近くの歩道にはクジラの説明の絵などがあり、景色も良く、散歩するには大変良い環境と言えます。ホームの敷地内には中庭や散歩出来る庭があり、四季を感じる事が出来ます。ウッドデッキもあり、それらを活用してバーベキューなども楽しまれています。地元の利用者が殆どなので、職員の皆さんと一緒に「塩あご」や「焼きあご」を作られ、家で過ごしている様な気持ちでホームで生活されています。また、多目的ホールもあり、利用者はADL低下を防ぐ為に毎日「体操」や「レクリエーション」に楽しく参加されています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体の理念を玄関に掲げ、又、ユニット(スタッフ室)ごとに職員の独自性による理念を計上している。又、目に就くところに掲示し、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業主体の運営理念の他にホームにおける理念が各ユニットにて定められています。この理念は、ホームが開設された当時に、全職員による話し合いで定められたものです。運営理念は玄関に掲示され、各ユニットにはそれぞれの理念がスタッフルームに掲げられています。	理念の共有については更なる取り組みが必要な状況と言えます。職員で作られた理念ですので、更に共有を深め、ケアの実践につなげられることを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、施設の代表及び職員が会議(地区総会・地区防災会議・イベント等)に参加している。又、ご利用者も地区のイベント等に参加できるときは、職員と共に参加をし、又、施設内行事にも外部から参加をしてもらっている。	自治会に入会され、地域のボランティアの受け入れなどが行われています。地域の人を行事(夏祭り・敬老会)へ誘われ、職員や利用者も地域の行事へ参加されるなど、年々地域との交流の機会を増やされています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はないが、今後予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ご利用者状況報告や運営状況報告、事故状況報告、研修及び諸行事等の報告等、他意見交換会を行っている。又、意見交換会等で得た情報やご指摘等を職員で共有し、サービスに活かしている。	2ヶ月に1度は会議が開催され、ホームの実情などの報告や意見交換が行われています。地域の様々な人が参加されており、出された意見は職員会議等で全職員へ周知されています。	会議はきちんと運営されていますが、不参加の家族への報告や、外部の方への周知など、更なる取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平戸市福祉課介護保険班職員に運営推進会議委員を委嘱し、会議時に意見交換等を行っている。	運営推進会議の時はもちろん、それ以外でも分からない事や困った事案の相談などがスムーズに行われています。立地的に支所が隣という事もあり、協力的な関係が築かれています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日常的に上司等との話し合いや又、スタッフ会議等において意見を交換する等適切な対応等を心がけている。中には、帰宅願望が強く、居室内の見守りが厳しいことから、家族と相談し、居室内の窓に施錠をしている。又、転倒の危険がある人には、家族に相談の上、センサーマットを設置している。	外部研修へ年に1度は職員を派遣され、伝達講習が行われています。全職員で共有し、日頃の言葉かけなど職員同士での確認が行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員としてあるまじき姿を教訓とし、言葉(スピーチロック)等の虐待等がないよう職員間で声を掛け合い、身体観察を行う等注意を払い、月1のユニット会議等で意見交換を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度への理解を深める為の学習の必要性や、個別に問題や課題を家族等と協議や検討を行い、計画書に反映している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時は管理者・主任等が対応し、ご家族の不安解消のため、納得されるまで十分な説明を心がけている。又、国の制度改正等による報酬等の改定等については、通知でのお知らせ及び家族会議等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1度家族会議を行っている。家族同士や施設職員との意見交換を行い、貴重なご意見を施設運営に反映している。又、玄関に意見箱の設置を行い、他、ご家族等が面会で来所時、声を掛ける等、コミュニケーションを図っている。	年に1度は家族会が開催され、家族間での交流や職員との交流を図るように努められています。会に出された意見や要望は全職員で共有され、運営へ生かすようにされています。また、面会時のコミュニケーションも大切にされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1のユニット会議の実施時や主任者会議及び全体会議等で職員の意見や提案を聴く機会を設け、管理者等上司に報告をし、職務に反映させている。	職員会議の他に各委員会での話し合いや月に1度のユニット会議において職員の意見を汲み取り、ホームの運営につなげられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力等を勘案し、漁協の規定や施設の就業規則等に基づき職場環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、職員不足により、思うような取組ができていないのが実情である。早目に職場環境の充実を図る等、又、現状に即した対応を見極め、力量にあったスキルアップをめざし、個々の研鑽の為、努めて、内部研修の実施や又、外部研修等への参加を実践したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	未実施		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後の本人との密接な関係作りや、孤立防止の為、声掛け重視や話を通して要望等に耳を傾け、ケアプランに反映をさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後の家族との密接な関係作りや、来訪時に近況をお知らせし要望等をお聞きする等、意見交換を行いケアプランに反映をさせている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の相談・要望等に耳を傾け、よく聞き取り、要望と必要性が一致しているか等、職員間での検討やアセスメントを行い、適切なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間がゆるすときは、声掛けを行い、会話を広げ、又、洗濯ものたたみや食後の食器類のかたづけ、居室の窓ふき、テーブル拭き、手すり等の消毒、畑の野菜収穫、種まきなど季節や時間を共有し共同生活を送り信頼関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご利用者様の絆を更に高める為、面会時は必ず、施設での様子を話したり、毎月発送の家族への手紙で様子をお伝えし、又、電話等で受診後の様子やその他連絡事項について連絡を行う等、又、行事等のご案内、面会時のレクリエーション等へのご参加など協力を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った地のドライブやお盆やお正月を初め、家族や地域とのふれあいを深める為に外出をお勧めしている。	知人の面会は多く、友人からの手紙が来たり、自らハガキを出す機会も作られ、馴染みの関係が切れないように支援されています。利用者の殆どが島内の方で利用者同士も馴染みの方が多い状況です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者のご性格や持病の状況を把握し、お互いがトラブルや孤立することのないように席順の配慮や会話が聞き取れない時等は、職員が対応し、コミュニケーションづくりに努めている。又、施設の理念に基づき穏やかな共同生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方たちに、所用等で病院等訪れた際に面会を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をすることで、ご利用者の症状を把握する等、又、その日の状態による個々の接し方については、本人の希望に応じた対応を心がけている。	職員それぞれが会話を多く持つようにされ、利用者との時間を大切にされています。家族と共にその対話の中で思いや意向を聞くように努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは家族も同席の上、入居前・入居後に話を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録については、ケアノート(電子ノート)に行ない、内容の精査を朝のミーティングやユニット会議において職員間で情報を共有し、実施し検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で協議(会議等)を行い、ケアプランを作成している。担当者が随時モニタリング(特記事項等)をすることでケアプランの内容を現状に即した計画に改めている。	アセスメントは計画作成者、ケアマネージャーにて行われ、利用者の担当者による月間モニタリングが行われています。職員・家族・医師等からの意見を取り入れ、利用者の為の介護計画書を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアノート(電子記録)による記録、又、申し送りノート等で担当者が毎月けモニタリングをし、情報を共有しながら計画等の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により外泊や外出の対応をしている。又、理容等についても希望を取り毎月計画的に行なっている。又、施設にあつては、職員間で他、ご利用者様の申し出により、別なニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等への参加や図書等借入希望についても対応を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(一般病院・歯科医院)等へのご利用者受診については、ほぼ施設対応としている。又、必要時は家族へ同行してもらっている。	現在の利用者は全て協力医療機関をかかりつけ医にされています。往診は歯科のみで、その他の通院は、ホームにて対応されています。受診結果は直ちに家族へ連絡するようにされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を図り、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを伝えて相談し、申し送りの徹底、又、相談後、受診の支援等、適切な受診等が受けられるよう指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	受診時や入院者への訪問時に病院関係者と情報の交換を行い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取を行っていないことから、施設での対応や限度等については、家族と良く話し合いを行っている。現状では、早い段階から病院受診を心がけ、本人や家族等とも情報を共有し対応をしている。	ホームでは看取りを行わない方針です。医療が必要になった時点で医療機関への入院を促すようにされています。それぞれの状況に応じて家族と話し合いを行うようにされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に数回消防署指導の元、救急救命講習を行っている。又、準看護師の指示を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に火災等昼夜間の火災を想定した防火訓練や消火器訓練・AED訓練・地震等防災講習等を実施し、職員の危機管理意識の向上に努めている。又、防火管理者・管理者・ケアマネ・主任等消火設備等のチェックを行っている。	火災・その他災害に対する計画書は策定され、消防署と共に訓練を行われています。消火設備等の点検も行われており、運営推進会議でも報告されています。	計画書もしっかりと策定され、訓練の実施や消防署の講話も受けられていますが、訓練は年1回といった状況です。様々な理由はあるようですが、最低でも年2回以上の訓練の実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室であることから、プライバシーの確保と又、入浴時における更衣室についてもカーテン仕切りでプライバシーを確保している。又、ご入所様の誇りやプライバシーを損ねかねない言葉かけなどがなければ職員間で注意しているが、徐々に言葉がきつくなくなることもある。	トイレ誘導時の言葉かけなどは、耳元で話すなど周囲に気を遣うよう心がけられています。利用者に対する「慣れ」により言葉がきつくなりがちであるため、職員間で注意するようにされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけながら、常に～しますか、やってみましょうかとお声をかける等思いを聞き取る等の対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加についても、本人の希望を聞き、ユニットごとに音楽やゲーム、ぬり絵などご利用者の目線に立ち1日を楽しく愉快地に過ごせるよう希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣(汚染時等)、入浴時の洗髪、乾髪、男性は髭剃りや洗顔、女性は顔拭きや髪の手入れ等外出時の身だしなみを含め、職員で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、一人ひとりの好みや身体状況に合わせた料理を行い、食事を楽しんでいる。又、たまに好き嫌いがあり、摂取量が減る方もいるが、職員も介助しながら対応している。	食事はホームにて作られており、献立は給食委員会3名にて作成されています。地元の行事食やホームの庭先を活用したバーベキューなども提供されています。利用者も食器拭きやテーブル拭きなどの役割を担われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事摂取量については、記録をしているが、固形が食べづらい人には、ミキサーで調理をし、提供している。他、職員で、栄養バランスの行き届いた調理メニューを作成し、ご利用者に合わせた食事の量や調理の方法等、又、身体的な状態や習慣に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施、又、午前中のレクレーション時に行う口腔体操の実施、夜の義歯洗浄の実施、他ユニットごとの対応を通して、ご利用者の口腔状態や本人の力に応じた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック記録表を用い、声掛けし、トイレ排泄を促している。オムツの人は、職員から声掛け、誘導しオムツを交換している、又、トイレ排泄の人は、時間を見て介助誘導し、パット交換を行っている。トイレでの排泄や自立に向けた対応をしている。	排泄チェック表が活用されています。個人個人によってトイレへの誘導は異なり、それぞれに対応されています。オムツ着用からリハビリパンツ・布パンツへと自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や毎日レクリエーションを行い体操等のメニューをこなし、又、水分補給を行う等、他薬等によって個々の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は2ユニットでそれぞれ交代で週3回行い、体調不良等でその日入浴できなかった場合は、翌日対応する等、又、身体体調に合わせて清拭、足浴で身体的状況に応じた浴槽を提供している。	日曜日以外は入浴が行われています。基本午前中ですが、状況に応じて午後も対応は可能とされています。介助はマンツーマンで行われ、身体状況に合わせた浴槽(個浴・器械浴など)にて対応されています。入浴が出来ない時は清拭や足浴にて清潔保持に努められています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の午睡、眠れない人は、消灯後もテレビを見ているが、全体的に夜間帯の安眠は出来ている。又、寝具等の清潔感を維持する為に、週1回のシーツ交換や天気のいい日は寝具干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の服用薬については、処方の内容を理解し、その支援と症状等については早めの対応を心がけている。又、全員が確認できやすいところに保管し、いつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日にリズムがあるように午前中にレクリエーション(体操・唄・口腔)を行っている。他、ドライブ・カラオケ・洗濯物たたみや畑の作物の収穫等軽作業・貼絵・ぬり絵等、好みに合ったことを行っている。他ユニットごとに工夫をし、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族等の迎えによる帰宅(盆・正月等)や、天気の良い日は、施設行事としてドライブや花見、又、正月は神社参拝等を行っている。又、地区行事等にも努めて参加をしている。	年間施設行事としてドライブや花見・初詣などが行われています。家族の協力によりお盆やお正月には外泊される利用者もいらっしゃいます。状況に応じて、散歩や買い物へも出かけられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金は個人ごとに施設でお預かりをし、個人的な買い物等お申し出により自由に利用できることになっている。中には、少数の方が現金を所持しているが、帰宅願望による行動が見られる為、見守りが必要。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届くと本人にお話し、直接ご利用者様がお礼の電話を入れたり、施設より電話を入れている。又、携帯もご自由に利用でき、手紙等もやり取りができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあっては、外気を取り入れる為の窓(空気・太陽光)設備を有し、又、癒しの空間を取り入れた中庭の設置及び散策道路や植栽による外庭の整備等美化に努めている。又、季節感を感じるよう、職員とご利用者様で手作り季節の花等貼り絵やぬり絵を行っている。	リビングには、利用者と職員で共同制作した季節のものが飾られています。各ユニットには、広いリビングや裏庭へ続く大きい窓があります。共用の多目的ホールでは、毎日体操やレクリエーションが行われており、利用者は楽しく過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室兼食堂を共同生活の有効利用の場として活用(個々の自席やソファ)、又、多目的ホールには、手の上下運動ができる器具を設置していることから、ご利用者も良く利用されている。又、施設の前が道路であることから施設から車や人の動きが見られ、日常生活の状況を肌で感じることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であることから、ご自宅から馴染みの物を持ちこまれ、自由に利用(落ち着く空間づくり)されている。	居室には、思い思いに自宅から馴染みの物が持ち込まれており、各々家族と共にレイアウトをされています。温度・湿度の管理や危険因子の確認も行われ、過ごしやすく安全で安心できる空間の提供に努められています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	口腔ケア、排出は自分でできるよう、声掛け、見守りを行っている。施設内は、全館個室となっており、プライバシーも守られ、安全に生活できるよう手すりの設置等バリアフリーを施している。又、バリアフリーで行き来がしやすく、他のユニットへの移動もスムーズに行われ、お互いに交流もでき、喜ばれている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体の理念を玄関に掲げ、又、ユニット(スタッフ室)ごとに職員の独自性による理念を計上している。又、目に就くところに掲示し、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、施設の代表及び職員が会議(地区総会・地区防災会議・イベント等)に参加している。又、ご利用者も地区のイベント等に参加できるときは、職員と共に参加をし、又、施設内行事にも外部から参加をしてもらっている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はないが、今後予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。ご利用者状況報告や運営状況報告、事故状況報告、研修及び諸行事等の報告等、他意見交換会を行っている。又、意見交換会等で得た情報やご指摘等を職員で共有し、サービスに活かしている。			
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平戸市福祉課介護保険班職員に運営推進会議委員を委嘱し、会議時に意見交換等を行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、日常的に上司等との話し合いや又、スタッフ会議等において意見を交換する等適切な対応等を心がけている。中には、帰宅願望が強く、居室内の見守りが厳しいことから、家族と相談し、居室内の窓に施錠をしている。又、転倒の危険がある人には、家族に相談の上、センサーマットを設置している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員としてあるまじき姿を教訓とし、言葉(スピーチロック)等の虐待等がないよう職員間で声を掛け合い、身体観察を行う等注意を払い、月1のユニット会議等で意見交換を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度への理解を深める為の学習の必要性や、個別に問題や課題を家族等と協議や検討を行い、計画書に反映している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時は管理者・主任等が対応し、ご家族の不安解消のため、納得されるまで十分な説明を心がけている。又、国の制度改正等による報酬等の改定等については、通知でのお知らせ及び家族会議等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1度家族会議を行っている。家族同士や施設職員との意見交換を行い、貴重なご意見を施設運営に反映している。又、玄関に意見箱の設置を行い、他、ご家族等が面会で来所時、声を掛ける等、コミュニケーションを図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1のユニット会議の実施時や主任者会議及び全体会議等で職員の意見や提案を聴く機会を設け、管理者等上司に報告をし、職務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力等を勘案し、漁協の規定や施設の就業規則等に基づき職場環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、職員不足により、思うような取組ができていないのが実情である。早目に職場環境の充実を図る等、又、現状に即した対応を見極め、力量にあったスキルアップをめざし、個々の研鑽の為、努めて、内部研修の実施や又、外部研修等への参加を実践したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	未実施		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後の本人との密接な関係作りや、孤立防止の為、声掛け重視や話を通して要望等に耳を傾け、ケアプランに反映をさせている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後の家族との密接な関係作りや、来訪時に近況をお知らせし要望等をお聞きする等、意見交換を行いケアプランに反映をさせている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の相談・要望等に耳を傾け、よく聞き取り、要望と必要性が一致しているか等、職員間での検討やアセスメントを行い、適切なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間がゆるすときは、声掛けを行い、会話を広げ、又、洗濯ものたたみや食後の食器類のかたづけ、居室の窓ふき、テーブル拭き、手すり等の消毒、畑の野菜収穫、種まきなど季節や時間を共有し共同生活を送り信頼関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご利用者様の絆を更に高める為、面会時は必ず、施設での様子を話したり、毎月発送の家族への手紙で様子をお伝えし、又、電話等で受診後の様子やその他連絡事項について連絡を行う等、又、行事等のご案内、面会時のレクリエーション等へのご参加など協力を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った地のドライブやお盆やお正月を初め、家族や地域とのふれあいを深める為に外出をお勧めしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者のご性格や持病の状況を把握し、お互いがトラブルや孤立することのないように席順の配慮や会話が聞き取れない時等は、職員が対応し、コミュニケーションづくりに努めている。又、施設の理念に基づき穏やかな共同生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方たちに、所用等で病院等訪れた際に面会を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をすることで、ご利用者の症状を把握する等、又、その日の状態による個々の接し方については、本人の希望に応じた対応を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは家族も同席の上、入居前・入居後に話を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録については、ケアノート(電子ノート)に行ない、内容の精査を朝のミーティングやユニット会議において職員間で情報を共有し、実施し検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員間で協議(会議等)を行い、ケアプランを作成している。担当者が随時モニタリング(特記事項等)をすることでケアプランの内容を現状に即した計画に改めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアノート(電子記録)による記録、又、申し送りノート等で担当者が毎月モニタリングをし、情報を共有しながら計画等の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により外泊や外出の対応をしている。又、理容等についても希望を取り毎月計画的に行なっている。又、施設にあつては、職員間で他、ご利用者様の申し出により、別なニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等への参加や図書等借入希望についても対応を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(一般病院・歯科医院)等へのご利用者の受診については、ほぼ施設対応としている。又、必要時は家族へ同行してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連携を図り、日常の関りの中でとらえた情報や気づきを伝えて相談し、申し送りの徹底、又、相談後、受診の支援等、適切な受診等が受けられるよう指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	受診時や入院者への訪問時に病院関係者と情報の交換を行い関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取を行っていないことから、施設での対応や限度等については、家族と良く話し合いを行っている。現状では、早い段階から病院受診を心がけ、本人や家族等とも情報を共有し対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に数回消防署指導の元、救急救命講習を行っている。又、準看護師の指示を仰ぐ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に火災等昼夜間の火災を想定した防火訓練や消火器訓練・AED訓練・地震等防災講習等を実施し、職員の危機管理意識の向上に努めている。又、防火管理者・管理者・ケアマネ・主任等消火設備等のチェックを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室であることから、プライバシーの確保と又、入浴時における更衣室についてもカーテン仕切りでプライバシーを確保している。又、ご入所様の誇りやプライバシーを損ねかねない言葉かけなどがないか職員間で注意しているが、徐々に言葉がきつくなることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけながら、常に～しますか、やって見ましょうかとお声をかける等思いを聞き取る等の対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加についても、本人の希望を聞き、ユニットごとに音楽やゲーム、ぬり絵などご利用者の目線に立ち1日を楽しく愉快に過ごせるよう希望に沿った対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣(汚染時等)、入浴時の洗髪、乾髪、男性は髭剃りや洗顔、女性は顔拭きや髪の手入れ等外出時の身だしなみを含め、職員で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、一人ひとりの好みや身体状況に合わせた料理を行い、食事を楽しんでいる。又、たまに好き嫌いがあり、摂取量が減る方もいるが、職員も介助しながら対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事摂取量については、記録をしているが、固形が食べづらい人には、ミキサーで調理をし、提供している。他、職員で、栄養バランスの行き届いた調理メニューを作成し、ご利用者に合わせた食事の量や調理の方法等、又、身体的な状態や習慣に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施、又、午前中のレクレーション時に行う口腔体操の実施、夜の義歯洗浄の実施、他ユニットごとの対応を通して、ご利用者の口腔状態や本人の力に応じた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック記録表を用い、声掛けし、トイレ排泄を促している。オムツの人は、職員から声掛け、誘導しオムツを交換している。又、トイレ排泄の人は、時間を見て介助誘導し、パット交換を行っている。トイレでの排泄や自立に向けた対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や毎日レクリエーションを行い体操等のメニューをこなし、又、水分補給を行う等、他薬等によって個々の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は2ユニットでそれぞれ交代で週3回行い、体調不良等でその日入浴できなかった場合は、翌日対応する等、又、身体体調に合わせて清拭、足浴で身体的状況に応じた浴槽を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の午睡、眠れない人は、消灯後もテレビを見ているが、全体的に夜間帯の安眠は出来ている。又、寝具等の清潔感を維持する為に、週1回のシーツ交換や天気のいい日は寝具干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の服用薬については、処方の内容を理解し、その支援と症状等については早めの対応を心がけている。又、全員が確認できやすいところに保管し、いつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日にリズムがあるように午前中にレクリエーション(体操・唄・口腔)を行っている。他、ドライブ・カラオケ・洗濯物たたみや畑の作物の収穫等軽作業・貼絵・ぬり絵等、好みに合ったことを行っている。他ユニットごとに工夫をし、対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族等の迎えによる帰宅(盆・正月等)や、天気の良い日は、施設行事としてドライブや花見、又、正月は神社参拝等を行っている。又、地区行事等にも努めて参加をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金は個人ごとに施設でお預かりをし、個人的な買い物等お申し出により自由に利用できることになっている。中には、少数の方が現金を所持しているが、帰宅願望による行動が見られる為、見守りが必要。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届くと本人にお話をし、直接ご利用者様がお礼の電話を入れたり、施設より電話を入れている。又、携帯もご自由に利用でき、手紙等もやり取りができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあっては、外気を取り入れる為の窓(空気・太陽光)設備を有し、又、癒しの空間を取り入れた中庭の設置及び散策道路や植栽による外庭の整備等美化に努めている。又、季節感を感じるよう、職員とご利用者様で手作りで季節の花等貼り絵やぬり絵を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室兼食堂を共同生活の有効利用の場として活用(個々の自席やソファ)、又、多目的ホールには、手の上下運動ができる器具を設置していることから、ご利用者も良く利用されている。又、施設の前が道路であることから施設から車や人の動きが見られ、日常生活の状況を肌で感じることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室であることから、ご自宅から馴染みの物を持ちこまれ、自由に利用(落ち着く空間づくり)されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	口腔ケア、排出は自分でできるよう、声掛け、見守りを行っている。施設内は、全館個室となっており、プライバシーも守られ、安全に生活できるよう手すりの設置等バリアフリーを施している。又、バリアフリーで行き来がしやすく、他のユニットへの移動もスムーズに行われ、お互いに交流もでき、喜ばれている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				